

中学生・高校生参画による子どもへの学習支援活動

めだかの楽校実行委員会

活動の目的

地域を盛り上げるために公民館を中心に活動している中学生のボランティアグループがあります。27年度には中高生が自ら考え行動する力を備え、子どもが変われば大人も変わるを合い言葉に地域の方を巻き込み、学習習慣の定着を目的に「めだかの楽校」を開校し、子どもの居場所づくり、仲間づくりを目指す。そして、中高生のスキル向上を目指したいと考えています。こうした世代間・異年齢交流が地域の活性化にも結び付けてくるものと思います。

活動の内容及び経過

参加状況は夏・冬休みとも全校児童（54名）の約31%前後の子どもが毎回参加。

中高生ボランティアの参加は、夏は1日平均1.5名、冬は1日平均0.5名。部活動の関係で中高生の参加が少なかったのですが、地域の方がそのフォローしてくださいました。地域の方のボランティアは夏・冬とも1日平均1.1名、結果的には中高生と合わせて学習支援者の空白は1日もありませんでした。

めだかの楽校学習支援で、夏休みは平日の午前中、19日間の学習支援を行い、延330名（内、5日間は外部講師を招いての特別学習に延133名）が参加。平日の学習支援では3時限に分けて勉強時間、自由時間と進み、宿題など、自ら立てた学習計画が家で行うより早く終了と好評。この学習支援には中学生および地域の方の支援が大きかったといえます。毎日のふりかえり発表では、自分の評価を5段階に分けて発表。計画通りに進行できた上位2段階が9割を占めたのもその表れではないかと思えます。保護者からも高評価をいただきました。また、特別学習でも「集中して絵を描けた」とか、木工教室では「初めて金槌やのこぎりを体験できた」と子どもや保護者から好評でした。冬休みは、平日の午前中6日間で、延べ100名の参加。冬も夏と同様に、毎日のふりかえり発表を実施。結果は10割近くが上位の2段階であった。

この「ふりかえり」発表は、終了時間前の反省会にてその日のふりかえりをノートに書き、それを一人一人発表しています。

また、土曜日の体験学習支援として科学教室や自然観察など5回で延べ102名が参加。

科学教室とか自然観察（地元の川に入っただけの観察）などは毎年の人気行事となってきたのは、都度の新しい発見・経験が児童の人気を呼んでいるように思えます。



活動の成果・効果

- *児童が計画的な夏休みを過ごしてくれたとかの高評価をいただく。
- *めだかの楽校の継続で、いままでこなかった児童が公民館に集うようになりだした。
- *自学自習のため子どもたちの計画性ができた。
- *中高生の指導力が育ち、力を発揮できるようになってきた。活動が能動的になってきた。
- *中学生の活動で地域の方のボランティアが少なかったけれど、中高生をみて「元気」ができたとのこと。この輪が次に広がることを期待したい。
- *休憩時間などの遊びを含めて、異年齢交流が図られた。
- *この活動により、公民館を利用する地域のクラブや関係団体が温かく見守り協力的になってくださった。

今後の課題と問題点

- *特別学習で、外部講師のいる行事時の中高生の立ち位置に苦慮。支援できるものがあると子どものフォローにはなるが、それ以外の講座の時は手持ち無沙汰状態。
- *中高生の部活・塾などで時間的制約が生まれ、効率よい運営などを工夫することが必要になってきた。
- *中高生の活動などが能動的になってきたが、支援などの反省をふりかえりをノートなどで提案してもらってもほとんど答えがない。ふりかえりノートへの書式などの書き方の検討が必要。
- *夏期間が中高生、地域の方にとって長すぎるのか？そうであれば、何日ぐらいが妥当なのか検討する必要、もしくは長くても今まで以上の何かの工夫が必要。

- 代表者：高月憲二郎 ●所在地：小田郡矢掛町本堀
- TEL：0866-83-1299
- E-MAIL：nakagawa@kouminkan.town.yakage.okayama.jp
- 設立年：2015年 ●メンバー数：17名